



日之出海運株式会社 代表取締役社長
 SHIMIZU MITSUO
清水 満雄

《清水満雄さん プロフィール》
 1969年1月19日生まれ。福岡県出身。
 座右の銘／ちはやぶる 神の開きし 道をまた
 聞くは人の 力なりけり
 HP / <http://www.hinodekaiun.jp/>
 (写真・インタビュー 竹下章太郎、記事 くのいちOL嬢。)

6年がかりの挑戦が、 大きな自信につながりました

◎なぜ今の仕事に就いたのですか

弊社は「日本は島国なので船の事業は廃れないだろう」という考えの元、私の祖父が昭和10年に創業した会社です。幼少の頃から祖父や父の働く姿を見て育ちましたので、いずれは自分がこの会社を継ぐのだと考えていました。

私は学生時代からバスケットボールをやっていた、入社する前はバスケットボール日本リーグチームのマネージャーとして働いておりました。秋にスタートするBリーグ(ジャパン・プロフェッショナル・バスケットボールリーグ)の前身といえばイメージしやすいかと思えます。主に選手の練習補助や遠征の手配、予算の申請等の業務を行っておりました。バスケットボールの試合で日本全国47都道府県全てを渡り歩いたことは、私の密かな自慢です。

勝負の世界に身を置いたことで、積極性やバイタリティーを培いました。これは今の仕事にも活かされていると思います。マネージャーとして7〜8年働いた後、平成10年に日之出海運株式会社に入社しました。そして平成21年2月、3代目の代表取締役社長に就任しました。

◎どんな苦労がありましたか

弊社は国内の製油所で作られたガソリン等の製品を、各地の油槽所と呼ばれる貯蔵施設へ物流輸送を行う船を所有する会社です。福岡市近郊だと岡山・山口・大分にある製油所から、西公園近くの荒津石油基地内の油槽所に製品を運んでいます。皆さまが使うENEOSを中心としたガソリンや、関西国際空港発の航空機向けジェット燃

料等の一部は、弊社が運んだものとなります。入社して最初に心がけたのは、当然のことながら船員さん全員の名前を覚えることです。そして現場の業務を知るために、自ら船に乗って製品の積み下ろしに立ち合いました。夜中も交代で見張りを行わなければならず、不規則な日々が続く、人生初の船酔いも経験しました。しかし一緒に船に乗って業務に接するうちに、船員さん達ともうまくコミュニケーションを取れるようになり、信頼関係を築くことができました。

他にも経営状況を把握するため経理業務や安全基準ライセンスの取得、取引先とのやり取り等、船の工務以外の業務は一通り務めました。弊社は創業から80年間、物流を通して世の中の暮らしと産業の発展に貢献して参りましたが、私が入社してから石油製品の需要は落ち続けています。そこで、国内だけでなく海外へも物流を広げることが、会社として右肩上がりの成長が見込めるという決意で、外航海運業への進出に踏み切りました。

それからは取引先となる商社及びブローカー回りや、同業者が集まるパーティーに潜入し情報収集を行いました。大きなプロジェクトですので、やはり一筋縄ではいきませんでした。相手にされないことが何度もありましたし、思うように行かない事も多く、大きな壁がたくさんありました。何度も挫折しそうになりましたが、何とかモチベーションを維持しながらとにかく前進し続けました。

◎働く人へのメッセージ

学生から新社会人になる時に理想と現実のギャップを感じます。学生時代は社会人としてのベースを作る大切な時期だと思います。20代のうちは仕事もプライベートも一生懸命やりましょう！たくさん学んで、しっかりと遊んで色々なことを吸収してほしいと思います。

◎これからの夢は

国内船はこれまで通り維持しつつ、外航船をもっと増やしていきたいです。個人的な夢としては、自分の船でパナマ運河を通ることですね！自分の船で通ったことがある人はなかなかいないと思いますので、いつか実現させたいです！



STAR PATHFINDER
 約61,000トン、長さ約200メートル
 “初の外航船 ウルトラマックスバルクキャリア”

福岡の社長 清水満雄さんに聞く、 お仕事の話